

国際青少年フォーラムの開催にあたって

トンボは私たちの身近な生き物のなかでも、最もなじみの深い昆虫です。誰でも子どものころには、トンボとりやトンボつりをした経験があるでしょう。勇ましく飛ぶギンヤンマや、夕やけ空のようなまっ赤なアカトンボを見て、感動した思い出もあるはずです。トンボは私たちの友だちです。

日本は北から南に長く、気候も快適で、また湿地や池なども多いため、200種以上ものトンボがすんでいます。したがって、日本人は長年トンボたちと親しんで暮らしてきたといえるでしょう。トンボは幸せや、豊かさ、そして自然を象徴するものであると思います。

ところが、最近トンボが減っています。トンボがすむ環境が悪くなったり、なくなったりしているからです。トンボたちは、卵や幼虫時代を水中ですごし、成虫になると地上や空中で生活します。だから、生きていくためには、きれいな水、豊かな緑、美しい空が必要です。これらがそろった自然環境は、人間にとっても好ましい環境です。

第12回国際トンボ学会シンポジウムが大阪で開かれ、海外から数多くの研究者が集まるのを機会に、みなさんにトンボに関心をもっていただき、トンボの生活を通じて自然を大切にしていってほしいと願って、シンポジウムでは初の試みとして、国際青少年フォーラム「トンボの講演と映画のつどい」—トンボに学ぼう自然の尊さ—を企画しました。特に、次の21世紀を担う世代に参加していただきたいと、青少年フォーラムとしました。トンボたちといつまでも仲良く友だちでいられるように、私たちのまわりの自然や環境を大切にしていきましょう。2億5千万年もの昔から現れて、今も生き続ける私たちの大先輩のトンボたちから、色々学んでいしましょう。

この国際青少年フォーラムを開催するにあたって、非常に沢山の方々、団体、企業、自治体から、激励の言葉やご援助をいただきました。これらのお力ぞえがなければ、実現しなかったことと思います。ここに記して厚くお礼を申し上げます。